



# KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

鹿児島2017  
ワイズメンズクラブ

No. 330

12月号

国際会長	Henry Grindheim [ノルウェー]	"Let us walk in the Light - together." 「ともに、光の中を歩こう」
アジア会長	Tung Ming Hsiao [台湾]	"Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」
西日本区理事	大野 勉 [神戸ポート]	"Healthy mind & healthy body make healthy club" 2022年に向けて「心身の健康づくりから、クラブの健康づくりへ」
九州部部长	小田 哲也 [福岡中央]	"Enhancement and activation of each clubs throw interesting various activities." — Healthy Clubs make Happy and Strong Kyushu Region! — 「多様な活動で各クラブの充実と活性化を!~健康なクラブが九州の元氣をつくる~」

2017 2018 鹿児島クラブ会長: 坂口 松平『楽しい奉仕。楽しい談話。』



## 第8回 鹿児島YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2017報告

第8回鹿児島YMCAインターナショナル・チャリティーラン2017が、全国協賛の三菱商事株式会社、富士通株式会社、鹿児島YMCA法人賛助会をはじめとする多くの企業、団体、個人の皆様のご支援のもと、盛大に開催できたことに感謝し、心より御礼申し上げます。

今年の大会は、曇り空で肌寒い日となりましたが、参加者の笑顔が絶えない大会となりました。

はじめに、今年も鹿児島県立吉野公園運動芝生広場を会場とし、1周400mの特設コースを作り競技を開催しました。2名から10名で構成される10kmのリレーマラソン部門では過去最多の31チーム150名がたすきをつないで走りました。また、1/100マラソン(421m)でも、過去最多1歳から5歳までの17名がチャレンジし、全員完走しました。

企業チームも多く参加し、中にはテレビ番組チームや新聞社などのマスメディアチームも参加、また遠くは福岡、熊本から1チーム参加しました。

障がいについて理解を深める目的で、昨年より「ブラインドランナーズ」の方々に運営のご協力をお願いし、ブランドラン体験を通じて、視覚障害体験や伴走などの支え方などを学び、体験しました。見えないことへの恐怖や、声のかけかた、寄り添い方など実際に体験してみないとわからないことが多く参加者からは、このチャリティーランで運営側が伝いたいこと、支援の意義について、様々な温かいご意見を頂戴しました。

大会の様子は、12月9日に鹿児島読売テレビ「ユメイロ@ネット」番組内において放送される予定です。

続いて、今大会では、個人および団体のボランティア、実行委員を合わせた24名が趣旨に賛同し大会運営においてご奉仕いただきました。YMCA法人賛助会会員企業の方々、J3サッカークラブの鹿児島ユナイテッドFC、地元のリレーマラソン運営責任者などから集まった実行委員会が主となり、運営に向けての会議や、当日運営を行いました。今大会のために、9月初旬より実行委員会を設け、月2回のペースで様々なアイデアを出し合い、準備を進めてきました。また当日は、第1回目より参加してくれている鹿児島ユナイテッドFCから球団スタッフたちが趣旨に賛同し、ボランティアメンバーとして大会運営を支えていただきました。

支援の輪と、チャリティーの意義が確実に拡がりつつあることを実感すると共に、続けていくことの大変さも同時に感じる大会でした。もっと、障がい児支援が身近に感じるような大会作りに邁進していきます。多くのご支援に感謝し、障がい児支援に取り組んでまいります。ありがとうございました。

鹿児島ワイズメンズクラブ：新内 博之



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT

YMCA のブランディングがきっかけとなって運動が前進することを願っています。

中堀ワイズ

YMCA が将来を見通して活性化しようという動きがわかりました。いわば形ができた段階だと思しますので、これを中身のあるものにしていくことを期待します。ワイズメンズクラブが少しでもお役に立てるようにしたいです。今日の話の続編を来年またお願いします。

園屋ワイズ



ヒイラギ  
(柊)

樹高は4-8m。葉は対生し、革質で光沢があり、その形は楕円形から卵状長楕円形をしている。その縁には先が鋭い刺となった鋭鋸歯がある。また、老樹になると葉の刺は次第に少なくなり、縁は丸くなってしまふ。種小名は「異なる葉」を意味し、この性質に由来する。花期は11-12月であり、葉腋に白色の小花を密生させる。雌雄異株で、雄株の花は2本の雄蕊が発達し、雌株の花は花柱が長く発達して結実する。花は同じモクセイ属のキンモクセイに似た芳香がある。花冠は4深裂して、径5mmになる。実は長さ12-15mmになる核果で、翌年6-7月に暗紫色に熟す。そして、その実が鳥に食べられることにより、種が散布されることになるのである。

クリスマスの飾りに使うのはセイヨウヒイラギ (Ilex aquifolium) であり、「ヒイラギ」とあってもモチノキ科に分類される別種である。ヒイラギは冬にも緑の葉と赤い実をつける植物なので、不死の象徴と考えられた。ヨーロッパの異教徒はヒイラギが男、ツタが女と考え、キリスト教以前から祭りに用いられていた。キリスト教のシンボルになるのは簡単なことで、先のとがったヒイラギの葉は十字架で処刑されたキリストの冠のイバラを表すとされ、赤い実はイバラが皮膚を貫いたとき珠となって落ちたキリストの血になったとされる。

(ウィキペディア参照)

2022 年に向けて

「心身の健康づくりから、クラブの健康づくりへ」

"Healthy mind & healthy body make healthy club"

一年の実に感謝し、仲間と祝い合いましょう

どの部会も、部長様を中心に趣向を凝らし、工夫や協力、包み込む愛情に満ちた部会でした。西日本区ワイズメンであることに誇りを持つことができました。参加させていただき、誠にありがとうございました。

一つだけ気になったことがあります。部会での盛り上がり、ご参加いただけなかった方々に、どのようにお伝えしていくかということです。西日本区ワイズメンお一人お一人が輝けるように、クラブ、部、区が一体となって取り組んでいけるものになりたいものです。

ラポポ

献金有難う  
もしやげます。



11月 合計金額 ¥3,152





# 11月例会の報告

137年間、全国250ヵ所以上の拠点で14万人が活動し多岐にわたる事業を行ってきたYMCA。日本のYMCAは1880年(明治13年)に東京で始まり、多様な分野でパイオニアとなる働きを全国各地で展開してきました。日本で初めての英語学校、室内プール、そしてバスケットやバレーボールなどのスポーツ競技、野外での教育キャンプ、それらの活動の中心となる「青年」という言葉もYMCAから誕生しました。この137年間、青少年を中心とした(学校でも家庭でもない)社会教育を行う団体として各種事業を展開し、全国250ヵ所以上の拠点で、14万人が活動するまでとなりました。

事業は、保育園・幼稚園・子ども園等の幼児教育、学童・アフタースクール、水泳・サッカー・体操等スポーツプログラム、野外教育(キャンプ)、児童発達支援、オルタナティブ教育、専門学校から、成人のためのフィットネス、英語その他の語学教育、日本語学校、近年では高齢者支援も行っています(2016年度全国事業規模286億)。

同時に、世界に連なる社会貢献団体として、ボランティア活動、寄付活動も積極的に行い、東日本大震災では6年間の活動でおよそ5万人のボランティア、9億4千2百万円の募金が国内外から集結。熊本地震でも指定管理者として避難所運営を行い、子ども・高齢者・女性・外国人、そしてペットにも配慮した人道的支援で大きな注目を集めました。

日本YMCAは、世界に広がるネットワークを活用し、多彩な国際協力・交流事業を行い、平和の創出を地域から目指してきました。

一方で、この間、活動の対象が多世代になり内容も多様化したことで、「何をやっている団体かわからない」という声を聴くことが多くなりました。2015年の大規模な生活者アンケートでは、「よく知らない」「イメージがわからない」という回答が多く、「キリスト教団体」「若者向け」「国際団体」と漠然と思われていることが浮き彫りとなりました。

また、「YMCAは聞いたことがある」という回答は多く、認知度は非常に高いことが明らかになりましたが、具体的なイメージが希薄になっており社会に必要な団体としての訴求力が低下している現状があります。

そこで、YMCAブランディング・プロジェクトを立ち上げ協議を重ね、この度、ブランドコンセプトを定めロゴを変更することに至りました。

2017年、未来に目線を上げ、YMCAがこれからも必要とされ、多くの方々に選ばれる存在となるために、決意をもって新たに旗印となるロゴ・スローガンを掲げ、新しい社会概念“ポジティブネット”のある豊かな社会の創造を宣言します。

## ■新ブランドロゴ・スローガン・コンセプト

### <ロゴ>

鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフとしたシンボル。一人ひとりの生命の息吹、未来へ向かう前向きな力、平和への想いを表現。

### <スローガン>

みつける。つながる。よくなっていく。

### <コンセプト>

あなたが、したい何かを「みつける」ために。

プログラム：YMCAは、多様なニーズに応えられるよう、幅広い活動を展開していきます。

あなたが、「つながりたい」誰かを探すために。

活動拠点：YMCAは、家族、コミュニティ、全国、世界の人びととの「つながり」の創出を大切にしていきます。

あなた自身の人生がもっと「よくなる」ために。

かけがえのない場所として：これからの世界に不可欠な、かけがえのない場所になっていきたい、YMCAはそう願っています。



## ■新しい社会概念“ポジティブネット”とは

人は一人では生きていくことはできません。支え合い、分かち合うつながりが必要です。互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク、それをYMCAは「ポジティブネット」と名付けました。課題の多い社会のなかで、社会保障的な役割をもったセーフティネット(最低限の社会保障)が機能するよりもっと早い段階から、ポジティブネットは社会に希望をもたらす、新たな豊かさを提供していきます。

日本語にすると誰もが生きやすい、希望ある豊かな社会を創造する社会安心網です。

以上、日本YMCA同盟が世の中に発信したメッセージを抜粋したものです。

YMCAとは何か、ワイズメンズクラブとは何か、なぜ私たちはこのような活動に取り組んでいるのか、様々なことを議論し、共通理解を深め、世に発信していく。これこそがまずは私たち自身をブランド化していく第一歩ではないでしょうか。

ブランディングは一朝一夕で達成するものではなく、またブランディングとは私達の手によって推進されるものであることを忘れず、今後も共に学びを深めていきましょう。

鹿児島ワイズメンズクラブ：新内 博之

## 定例会

日 時 平成29年12月12日 火曜日  
 会 場 ジェイドガーデンパレス  
 司 会 山下ワイス  
 書 記 園屋ワイス

- 1 開会点鐘……………坂 □ 会 長
- 2 ワイズソング……………全 員
- 3 会長挨拶……………坂 □ 会 長
- 4 ゲスト・ビジター紹介・挨拶
- 5 クリスマスメッセージ
  - ①牧師紹介
  - ②クリスマスメッセージ…………… 唐川 尊 議 牧 師  
[鹿児島キリスト教会]
  - ③もろびとこぞりて斉唱…………… 全 員
- 6 食前感謝……………尾 崎 ワ イ ス
- 7 クリスマス会
  - ①会食・懇談
  - ②諸報告
  - ③出席者一言…………… 全 員
  - ④その他
- 8 きよしこの夜斉唱……………全 員
- 9 YMCA ソング……………全 員
- 10 なごりはつきねど……………全 員
- 11 閉会点鐘……………坂 □ 会 長



## 今月の聖句

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

(ルカによる福音書2章8～11節)



## 定例会報告

日 時：平成 29 年 11 月 28 日 火曜日  
 場 所：ジェイドガーデンパレス  
 出席者：8 名  
 司会者：中堀ワイス

## 11月例会の記録

クラブ在籍者……………	14名
出席者……………	8名
メネット……………	0名
ゲスト……………	0名
ビジター……………	0名
メイクアップ……………	0名
11月出席率……………	57.1%

## 行事予定

鹿児島ワイズメンズクラブ

## 1月企画例会

日 時：1月8日月曜日  
 19:00~21:00  
 場 所：珈琲館かみむら

## 1月定例会

日 時：1月23日 火曜日  
 19:00~21:00  
 場 所：ジェイドガーデンパレス

チャータ  
 事務所  
 定例会  
 企画例会

- ▶ 1990年2月12日
- ▶ 〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田3丁目43-7 1F 鹿児島YMCA内
- ▶ 毎月第4火曜日 場所：ジェイドガーデンパレス
- ▶ 毎月第2月曜日 場所：珈琲館かみむら（時間は企画例会・定例会とも19:00▶21:00まで）